

1 次の傍線部分の読みをひらがなで
記せ。1～20は音読み、21～30は訓
読みである。

(30)
1×30

- 1 孜孜として研究を続ける。
- 2 師に欽慕の念を抱く。
- 3 尤物として一目置かれる。
- 4 城塞の周囲を鹿砦で囲む。
- 5 暢達な筆跡が今に残る。
- 6 諸侯に冊封を授ける。
- 7 損失の補填に苦慮する。
- 8 由緒ある神社の禰宜を務める。
- 9 趣味で切手を蒐集する。
- 10 輸送船団を掩護する。
- 11 姦詐をめぐらし人を陥れる。
- 12 文化交流が両国の紐帯を強化した。
- 13 極悪人を焚刑に処す。
- 14 座を一揖して立ち去った。
- 15 この椿事を大勢が目撃した。
- 16 翠雨に煙る山を眺める。
- 17 離島で唯一の杏林となる。
- 18 民の家から竈煙が立ち上る。
- 19 鶴、九臯に鳴き声天に聞こゆ。
- 20 戦を亡いて矛を得。
- 21 山の砦にある温泉郷に逗留する。
- 22 彼とは同業の誼で助け合う。
- 23 鎗を投げて猪を仕留める。
- 24 主君に叛いて兵を挙げる。
- 25 屢困難が待ち受けていた。
- 26 ゴミの山が堆く積まれる。
- 27 岨道を慎重に通り抜ける。
- 28 勇名は夙に知られていた。
- 29 決戦の時が愈迫る。
- 30 斯くの如き事態を招く。

2 次の傍線部分は常用漢字である。
その表外の読みをひらがなで記せ。

(10)
1×10

- 1 狙いは尽く的中した。
- 2 誰もが挙って成婚を祝った。
- 3 原本と抜き出した文を校べる。
- 4 普段と違って淑やかに見える。
- 5 ご助力をいただき誠に辱い。
- 6 覚えのないことで詰られた。
- 7 祖母は今年八月で齒九十だ。
- 8 悪事が露見して進退谷まった。
- 9 真珠擬の宝石を売りつける。
- 10 映画の内容を具に語る。

3 次の熟語の読み(音読み)と、その
語義にふさわしい訓読みを(送り
がなに注意して) ひらがなで記せ。

(10)
1×10

【例】 健勝…勝れる ↓ けんしょう
すぐ

ア 1 謬説 …… 2 謬る

イ 3 凋零 …… 4 凋む

ウ 5 鍾愛 …… 6 鍾める

エ 7 騷擾 …… 8 擾れる

オ 9 疏水 …… 10 疏る

4 次の各組の二文の()には共通す
る漢字が入る。その読みを後の
から選び、常用漢字(二字)で記せ。

(10)
2×5

1 その提案は承(1)しかねる。

守衛として夜間に(1)務する。

あまりにも苛(2)な仕打ちだ。

農民は(2)税に苦しむ。

2 反乱軍は武器を捨てて(3)順した。

動物としての(3)巢本能。

3 民衆の広(4)な支持を得る。

4 行動の規(4)となる条文をつくる。

5 どんな人とも(5)謙な態度で接する。

6 お心配り(5)悦至極に存じます。

かく	き	きよう	けん
こく	はん	ふう	ふく

5 次の傍線部分のカタカナを漢字で記
せ。

(40)
2×20

1 ケイセンが入ったノートを買う。

2 今年はカニの豊漁が期待できる。

3 午前中は里にカスミがかかる。

4 コソクな手段で生き残りをはかる。

5 敵の内部をカクランする。

6 重要な指摘をトウカンに付す。

7 この職はヨロクに与ることが多い。

8 上流社会のバンサン会に参加する。

9 二日ぶりにケイバクを解かれる。

10 溪流でニジマスを釣る。

11 芸能人の醜聞がメディアをニギわす。

12 十七歳まで両親のヒゴを受けて育つ。

13 誰にもわかるホラを吹く。

14 歴代の会長がセイゾロいした。

15 過去の作品をリヨウガする。

16 ギキョウシンから手助けする。

17 材木をノコギリで引く。

18 奨学金を二十年かけてカイサイした。

19 大会は四年ごとにカイサイされる。

20 優勝の知らせにカイサイを叫ぶ。

6 次の各文にまちがって使われている同じ音訓の漢字が一字ある。上に誤字を、下に正しい漢字を記せ。(10) 2×5

- 1 利益を得ることのみに汲汲とし、出世に糠泥していた自分を猛省したい。
- 2 長年に亘り孤高の師の薫唐を受け、知を探究する冷徹な眼を養った。
- 3 人気の携帯電話の新機種が発売されると、僅かな期間で市場を席巻した。
- 4 精密機器の製造で嘗て世界を牽引したが現在は他国の後陣を拜している。
- 5 碩学且つ才利な頭脳を持つ彼は、些細な矛盾も見逃さず複雑な難題の核心を瞬時に見抜いた。

7 次の問1と問2の四字熟語について答えよ。(30)

問1 次の四字熟語の(1～10)に入る適切な語を後の□から選び漢字二字で記せ。(20) 2×10

(1)	(一触)	前途	(6)
(2)	(昇天)	紫電	(7)
(3)	(妖怪)	長汀	(8)
(4)	(三遷)	門前	(9)
(5)	(叫喚)	鼓腹	(10)

あび・いっせん・がいしゅう・きよくじつ・きよくほ・げきじょう・こり・じやくら・もうば・りようえん

問2

次の1～5の解説・意味にあてはまる四字熟語を後の□から選び、その傍線部分だけの読みをひらがなで記せ。(10) 2×5

- 1 うろたえ、あわてふためくこと。
- 2 つまらない物も役立つことがある。
- 3 万物が自然な姿で自由に楽しむさま。
- 4 歳月が慌ただしく過ぎ去ること。
- 5 行動や運命を共にすること。

一蓮托生・土崩瓦解・竹頭木屑・掩耳盗鐘・周章狼狽・鳶飛魚躍・鳥飛兔走・泰山梁木

8 次の1～5の対義語、6～10の類義語を後の□の中から選び、漢字で記せ。□の中の語は一度だけ使うこと。(20) 2×10

対義語

類義語

1 礼讃	6 忽如
2 熟視	7 遭遇
3 緊張	8 疎慢
4 強靱	9 急逝
5 永住	10 吉兆

いちべつ・かぐう・がぜん・しかん・しょうずい・ずさん・ぜいじやく・とんし・ほうちやく・ぼうとく

9 次の故事・成語・諺のカタカナの部分に漢字で記せ。(20) 2×10

- 1 コウゼンの気を養う。
- 2 ノレンに腕押し。
- 3 断じて行えばキシシノも之を避く。
- 4 サギを鳥と言いくるめる。
- 5 幽谷を出でてキョウボクに遷る。
- 6 ジジヨの交わり。
- 7 ヒョウタン相容れず。
- 8 破れ鍋にトじ蓋。
- 9 センダンは双葉より芳し。
- 10 蜘蛛が網を張りてホウオウを待つ。

10 文章中の傍線(1～5)のカタカナを漢字に直し、波線(A～C)の漢字の読みをひらがなで記せ。(20) 2×5 1×10

A 隴西の李徴は博學才穎、天宝の末年、若くして名を虎榜に連ね、ついで江南尉に補せられたが、性、狷介、自ら恃む所頗る厚く、賤吏に甘んずるを潔しとしなかった。いくばくもなく官を退いた後は、故山、號略にキガし、人と交を絶つて、ひたすら詩作に耽つた。下吏となつて長く膝を俗悪な大官の前に屈するよりは、詩家として名を死後百年に遺そうとしたのである。しかし、文名は容易に揚らず、生活は日を逐うて苦しくなる。李徴は漸くシヨウソウに駆られて来た。この頃から其の容貌も峭刻となり、肉落ち骨秀で、眼光のみ徒らに炯々として、かつて進士に登第した頃の豊頬の美少年の俤は、どこに求めようもない。数年の後、ヒンキユウに堪えず、妻子の衣食のために遂に節を屈して、再び東へ赴き、一方、方官吏の職を奉ずることになった。一方、之は、己の詩業に半ば絶望したためでもある。かつての同輩は既に遙か高位に進み、彼が昔、鈍物として齒牙にもかけなかったその連中の下命を拝さねばならぬことが、往年の儁才李徴の自尊心を如何に傷つけたかは、想像に難くない。彼は快々として樂しまず、狂悖の性は愈々抑え難くなった。(中島敦「山月記」より)

B 頼み難きは我が心なり、事あればたちまちに移り、事なきもまた動かんとす。生じ易きは魔の縁なり、念をほしいま、にすればたゞちに発り、念を正しうするもなお起らんとす。この故に心は大海の浪と揺ぎて定まる時なく、縁は荒野の草と萌えて尽くる期あらねば、たまたま大勇猛の意気を鼓して不退転の果報を得んとするものも、今日の縁にひかれて旧年の心を失ふ輩は、可惜舟を出して彼岸に到り得ず、憂くも道に迷いて穢土にまた還るに至る。されば心を収むるは靈地に身を實くより好きはなく、縁を遮るは浄業に思を傾くるを最も勝れたりとなす。木片の薬師、銅塊のミダは、皆これ我が心と呼ぶの設け、崇め尊まぬは烏計なるべく、高野の蘭若、比叡の仏刹、いづれか道の念を励まさばらむ、参り詣らざるは愚魯なるべし。古えの人の、麻の袂を山おろしの風にヒルガ工し、法衣の裾を野路の露に染めつ、東西に流浪し南北に行きかいて、幾干の坂に谷に走り疲れながらなお辛しとせざるものは、心を靈地の靈氣に涵し念を浄業の浄味に育みて、正覺の暁を期すればなり。

(幸田露伴「二日物語」より)

● 制限時間

60分

● 合格点

160点

● 得点

点 / 200

氏 名	ふりがな	訂正 訂正	性別 男 女	生年月日		元号は 令和…R 平成…H 昭和…S 大正…T 明治…M を記入。西暦の 場合はWとして 下2ケタを記入。	
				元号	※印字されていない場合は、 中に生年月日を記入。		
				訂正	※生年月日に誤りがある場合、 訂正にマークし、 正しい生年月日を記入。		
マーク記入例						○のように「」をきれいに ぬりつぶしてください。	○ ×

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

1読み (30)

5	4	3	2	1

4

共通の漢字 (10)

オ		エ		ウ		イ		ア	
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

3

熟語の読み・一字訓読み (10)

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

2

表外の読み (10)

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

5

書き取り (40)

漢検

準1級

模擬試験問題① 答案用紙

5

4

3

2

1

〔問2〕
意味と読み

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

〔問1〕
書き取り

2×5

2×10

7

四字熟語

(30)

5

4

3

2

1

誤

正

2×5

6

誤字訂正

(10)

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

9

故事・諺

(20)

2×10

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

2×10

8

対義語・類義語

(20)

コ

ケ

ク

キ

カ

オ

エ

ウ

イ

ア

読み

5

4

3

2

1

書き取り

1×10

2×5

10

文章題

(20)

注意点

• 答えはすべて答案用紙に書くこと。

• 問題についての説明はないので、問題をよく読んでから答えを書くこと。

• 答えは、必ずHB・B・2Bの鉛筆かシャープペンシルで書くこと（ボールペンや万年筆などは使用不可）。

• 答えは楷書体で枠内いっぱい大きくはっきり書くこと。
特に漢字の書き取り問題では、はね・とめなどをはっきり書く。
行書体や草書体、乱雑な字は検定の対象にならない。

©Obunsha Co., Ltd. All Rights Reserved 2026

1 読み

各1点・計30点

- しし
- きんぼ
- ゆうぶつ
- ろくさい
- ちようたつ
- さくほう
- ほとん
- ねぎ
- しゅうしゅう
- えんご
- かんさ
- ちゅうたい・じゅうたい
- ふんけい
- いちゅう
- ちんじ
- すいう
- きょうりん
- そうえん
- きゅうこう
- げき
- はざま
- よしみ
- やり
- そむ(いて)
- しばしば
- うずたか(く)
- そばみち・そわみち
- つと(に)
- いよいよ
- か(く)

2 表外の読み

各1点・計10点

- ことごと(く)
- こそ(つて)
- くら(べる)
- しと(やかに)
- かたじけな(い)
- なじ(られた)
- よわい
- きわ(まった)
- もどき・まがい
- つぶさ(に)

3 熟語の読み・一字訓読み

各1点・計10点

- びゅうせつ
- あやま(る)
- ちようれい
- しば(む)
- しょうあい
- あつ(める)
- そうじよう
- みだ(れる)
- そすい
- とお(る)

4 共通の漢字

各2点・計10点

- 服(承服・服務)
- 酷(苛酷・酷税)
- 帰(帰順・帰巢)
- 範(広範・規範)
- 恭(恭謙・恭悦)

5 書き取り

各2点・計40点

- 野線
- 蟹
- 霞
- 姑息
- 攪乱
- 等閑
- 余禄
- 晚餐
- 繫縛
- 虹鱒
- 賑
- 庇護
- 法螺
- 勢揃(い)
- 凌駕
- 義侠心
- 鋸
- 皆済
- 開催
- 快哉

6 誤字訂正

各2点・計10点

- 糠(泥)↓拘(泥)
- (薰)唐↓(薰)陶
- (席)圈↓(席)卷・捲
- (後)陣↓(後)塵
- 才(利)↓犀(利)

7 四字熟語

各2点・計30点

- 〔問1〕
- 鎧袖(一触)
 - 旭日(昇天)

- 狐狸(妖怪)
- 孟母(三遷)
- 阿鼻(叫喚)
- (前途)遼遠
- (紫電)一閃
- (長汀)曲浦
- (門前)雀羅
- (鼓腹)擊壤

〔問2〕

- ろうばい(周章狼狽)
- ぼくせつ(竹頭木屑)
- えんぴ(鳶飛魚躍)
- とそう(烏飛兔走)
- いちれん(一蓮托生)

8 対義語・類義語

各2点・計20点

- 冒瀆
- 一瞥
- 弛緩
- 脆弱
- 佞僞
- 俄然
- 逢着・逢著
- 杜撰
- 頓死
- 祥瑞

9 故事・諺

各2点・計20点

- 浩然
- 暖簾
- 鬼神
- 鷺
- 喬木
- 爾汝
- 氷炭
- 綴(じ)
- 梅檀
- 鳳凰

10 文章題

各2点・計10点

- 〔書き取り〕
- 帰臥
 - 焦燥
 - 貧窮
 - 弥陀
 - 翻(し)

〔読み〕

各1点・計10点

- ア かの(む)
- イ す(ぶ)る
- ウ ふけ(った)
- エ ようや(く)
- オ おもかげ
- カ かた(く)
- キ こ(して)
- ク あたら
- ケ えど
- コ あが(め)

1 次の傍線部分の読みをひらがなで
記せ。1～20は音読み、21～30は訓
読みである。

(30)
1×30

- 1 弥縫策を講じたが無駄だった。
- 2 郷土の稗史が見つかった。
- 3 律詩の頸聯は後聯ともいう。
- 4 猛暑のため甜菜の育ちが悪い。
- 5 変わり果てた姿に憐情を催す。
- 6 本尊を厨子に安置する。
- 7 どうしても些事が気になる。
- 8 彼は牝牡の別を見分ける名人だ。
- 9 古諺の意味を研究する。
- 10 何度も叩扉して面会を請う。
- 11 郁郁たる花を愛でる。
- 12 師のもとで学問の藪沢をなす。
- 13 壁に大きな鉢を懸吊する。
- 14 辛酉の年に政変は起きた。
- 15 一見して這裏の消息を会得した。
- 16 秃筆を最後まで使う。
- 17 蔚蔚として日を送る。
- 18 その家から砧声が聞こえる。
- 19 巽与の言は能く説くこと無からんや。
- 20 芝蘭は深林に生ず。
- 21 疲労が澱のように溜まる。
- 22 千鴻から鳴の群れが飛び立つ。
- 23 海辺の苫屋に泊まる。
- 24 病気が全身を蝕んだ。
- 25 それは恰も巨大な蟻のようだった。
- 26 風が強いので蒨をおろす。
- 27 雪道を藁履で歩いた。
- 28 宿の庭に茂る八重葎を見る。
- 29 周の衰うるを見て迺ち遂に去る。
- 30 我童蒙に求むるに匪ず。

2 次の傍線部分は常用漢字である。
その表外の読みをひらがなで記せ。

(10)
1×10

- 1 事故の原因を詳らかにする。
- 2 目標達成に与って力があつた。
- 3 仕事が終わって部下を労う。
- 4 ほんの些細なことも論う。
- 5 掌を指すが如く難問を解く。
- 6 日が暮れ、剩え雪も降ってきた。
- 7 内部事情に委しい人を探す。
- 8 その件には頑な態度を貫く。
- 9 古希に因んだ贈り物を買う。
- 10 成人式で騒ぐ族を注意する。

3 次の熟語の読み(音読み)と、その
語義にふさわしい訓読みを(送り
がなに注意して) ひらがなで記せ。

(10)
1×10

【例】健勝……勝れる→けんしょう
すぐ

- ア 1 允可……………2 允す
- イ 3 畢生……………4 畢わる
- ウ 5 奪掠……………6 掠める
- エ 7 瀆職……………8 瀆す
- オ 9 坦夷……………10 夷らか
- 4 次の各組の二文の()には共通す
る漢字が入る。その読みを後の□
から選び、常用漢字(二字)で記せ。

(10)
2×5

- 1 娘は(1)紀十八歳です。
- 御(1)情に心から感謝いたします。
- 2 軍の陣(2)を立て直す。
- 年を重ね(2)色にも衰えが見られる。
- 3 次の選挙に党の(3)長をかける。
- 公金を私(3)して逮捕される。
- 4 物価の低(4)に一喜一憂する。
- 肩をそびやかして(4)然と歩く。
- 5 遠路より御(5)労をおかけする。
- わずかの間に長(5)の進歩を遂げる。
- かく きょう こう しょう
そく ほう よう れん

5 次の傍線部分のカタカナを漢字で記
せ。

(40)
2×20

- 1 漸く解決のシヨコウが見えてきた。
- 2 マスクをしてヒマツを避ける。
- 3 女王のゲキリンに触れる。
- 4 丁寧コンポウして送る。
- 5 ありもしないウワサを流す。
- 6 名誉と金をテンビンにかける。
- 7 ガンゾウの紙幣が発見される。
- 8 何事をするのもオックウになる。
- 9 夜空にサンゼンと輝く星を見る。
- 10 偶然のいたずらにホンロウされる。
- 11 ドウコウが光量を加減する。
- 12 自分にとってはタカネの花だ。
- 13 僅かな油断が事故をジャツキした。
- 14 季節のカンキツ類を好む。
- 15 ラグビーボールはダエン形だ。
- 16 何度もオクメンもなく口を出す。
- 17 毎晩酒色にタンデキする。
- 18 話をウ呑みにして失敗する。
- 19 彼はシイ的な行動が目余る。
- 20 人生についてシイする。

6 次の各文にまちがって使われている同じ音訓の漢字が一字ある。上に誤字を、下に正しい漢字を記せ。(10) 2×5

1 清蘇な令嬢は、白百合の如き端麗な容姿を誇り、皆の憧憬の的だった。

2 軍部では海軍と陸軍の勢力が錯綜競合し、戦争末期まで争いが続いた。

3 暗礁に乗り上げて遭難した船を、直近の港まで曳航し参橋に繫留した。

4 長年連れ添った夫婦の間にいつしか亀裂が入り、関係の修復は不可能だった。

5 文明開化の波が怒濤の如く押し寄せて、種種雑多な啓盲書が世に溢れた。

7 次の問1と問2の四字熟語について答えよ。(30)

〔問1〕 次の四字熟語の(1～10)に入る適切な語を後の□から選び漢字二字で記せ。(20) 2×10

(1)	奄奄	百尺	(6)
(2)	準縄	魚目	(7)
(3)	自煎	古色	(8)
(4)	一如	清濁	(9)
(5)	墨守	堯風	(10)

えんせき・かんとう・きく・きそく・きゅうとう・けいえい・こうか・しゅんう・そうぜん・へいどん

〔問2〕

次の1～5の解説・意味にあてはまる四字熟語を後の□から選び、その傍線部分だけの読みをひらがなで記せ。(10) 2×5

1 多くの人や物で混み合うさま。

2 見かけは立派でも実質が伴わない。

3 外見と内面がよく調和しているさま。

4 苦勞して懸命に勉学に励むこと。

5 自由自在に弁舌をふるうこと。

文質彬彬・打打発止・横説豎説・円木警枕・稲麻竹葦・首鼠兩端・羊頭狗肉・塗抹詩書

8 次の1～5の対義語、6～10の類義語を後の□の中から選び、漢字で記せ。□の中の語は一度だけ使うこと。(20) 2×10

対義語

類義語

1 根幹

6 細大

2 抑止

7 股肱

3 碇泊

8 死別

4 畏敬

9 経緯

5 懸絶

10 横行

えいけつ・こさい・せんどう・ちようりよう・てんまつ・はくちゅう・ばつびよう・ふくしん・ぶべつ・まつしょう

9 次の故事・成語・諺のカタカナの部分を選択して記せ。(20) 2×10

1 コチヨウの夢。

2 洛陽のシカを高める。

3 重箱の隅をヨウジでほじくる。

4 危うきことルイランの如し。

5 エンオウの契り。

6 錐のノウチュウに処るが若し。

7 ソウコウの妻は堂より下さず。

8 点滴石をもウガつ。

9 バクギャクの友。

10 タイカンは忠に似たり。

10 文章中の傍線(1～5)のカタカナを漢字に直し、波線(A～C)の漢字の読みをひらがなで記せ。(20) 2×5 1×10

A 余はモコたる功名の念と、檢束に慣れたる勉強力とを持ちて、忽ちこの欧羅巴の新大都の中央に立てり。何等の光彩ぞ、我目を射むとするは。何等の色沢ぞ、我心を迷わさむとするは。ボダイジユ下と訳するときは、幽静なる境なるべく思われるれど、この大道髪(だうだつ)の如きウンテル・デン・リンデンに来て両辺なる石だ、みの人道を行く隊々の士女を見よ。胸張り肩聳えたる士官の、まだ維廉(ゐりけん)一世の街に臨める意に倚り玉う頃なりければ、様々の色に飾り成したる礼装をなしたる、妍き少女の巴里まねびの粧(まけ)いたる、彼もこれも目を驚かさぬはなきに、車道の土瀝青の上を音もせず走るいろいろの馬車、雲に聳ゆる樓閣の少しとぎれたる処には、晴れたる空に夕立の音を聞かせて漲り落つる噴井の水、遠く望めばブランドンブルク門を隔て、緑樹枝をさし交わしたる中より、半天に浮び出たるガイセ[塔の神女の像、この許多の景物目睫の間に聚まりたれば、始めてこゝに來しもの、応接に違なきも宜なり。されど我胸には縦いかなる境に遊びても、あだなる美觀に心をば動さじの誓ありて、つねに我を襲う外物を遮り留めたりき。(森鷗外「舞姫」より)

B 予が所蔵に関する、長崎耶穌會出版の一書、題して「れげんだ・おうれあ」という。蓋し、LEONARD ACCORDの意なり。されど内容は必しも、西欧の所謂「黄金伝説」ならず。かの土の使徒聖人が言行を録すると共に、併せて本邦西教徒が、勇猛精進の事蹟をも採録し、以て福音伝道の一助たらしめんとせしものの如し。

体裁は上下二卷美濃紙摺草体交り平仮名文にして、印刷ハナハだしく鮮明を欠き、活字なりや否やを明にせず。上卷の扉には、羅甸字にて書名を横書し、その下に漢字にて「御出世以来千五百九十六年、慶長二年三月上旬鏤刻也」の二行を縦書す。年代の左右には喇叭を吹ける天使の画像あり。技巧頗る幼稚なれども、また掬すべき趣致なしとせず。下卷も扉に「五月中旬鏤刻也」の句あるを除いては、全く上卷と異同なし。

両卷とも紙数は約六十頁にして、載する所の黄金伝説は、上卷八章、下卷十章を数う。その他各卷の巻首に著者不明の序文及羅甸字を加えたる目次あり。序文は文章ガジユンならずして、間々欧文を直訳せる如き語法を交え、一見その伴天連たる西人の手になりしやを疑わしむ。

(芥川龍之介「奉教人の死」より)

● 制限時間

60分

● 合格点

160点

● 得点

点 / 200

氏 名	ふりがな	訂正 ※氏名に誤りがある場合、右上の訂正にマークし、正しい氏名を記入。	性 別 男 女	生年月日 元号 年 月 日	※印字されていない場合は、 中に生年月日を記入。	元号は 令和…R 平成…H 昭和…S 大正…T 明治…M を記入。西暦の 場合はWとして 下2ケタを記入。	
				訂正 元号 年 月 日			※生年月日に誤りがある場合、 訂正にマークし、 の中に正しい生年月日を記入。
				マーク記入例 ○のように「」をきれいに ぬりつぶしてください。 ○ × 訂正 訂正			

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

1読み (30)

5	4	3	2	1

4 共通の漢字 (10)

オ	エ	ウ	イ	ア					
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

3 熟語の読み・一字訓読み (10)

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

2 表外の読み (10)

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

5 書き取り (40)

漢 検

準1級

模擬試験問題② 答案用紙

54321

〔問2〕
意味と読み

10987654321

〔問1〕
書き取り

7
四字熟語
(30)

54321

誤
正

6
誤字訂正
(10)

2×5

2×10

2×5

10987654321

9
故事・諺
(20)

10987654321

8
対義語・類義語
(20)

2×10

2×10

コケクキカオエウイア

読み

54321

書き取り

10
文章題
(20)

1×10

2×5

注意点

• 答えはすべて答案用紙に書くこと。

• 問題についての説明はないので、問題をよく読んでから答えを書くこと。

• 答えは、必ずHB・B・2Bの鉛筆かシャープペンシルで書くこと（ボールペンや万年筆などは使用不可）。

• 答えは楷書体で枠内いっぱい大きくはっきり書くこと。
特に漢字の書き取り問題では、はね・とめなどをはっきり書く。
行書体や草書体、乱雑な字は検定の対象にならない。

1 読み

各1点・計30点

- 1 びぼうさく
2 はいし
3 けいれん
4 てんさい
5 れんじょう
6 ずし
7 さじ
8 ひんぼ
9 こげん
10 こうひ
11 いくいく
12 そうたく
13 けんちよう
14 しんゆう
15 しやり
16 とくひつ
17 うつつ
18 ちんせい
19 そんよ
20 しらん
21 おり
22 しぎ
23 とまや
24 むしば(んだ)
25 あたか(も)
26 しとみ
27 わらぐつ
28 やえむぐら
29 すなわ(ち)
30 あら(ず)

2 表外の読み

各1点・計10点

- 1 つまび(らか)
2 あずか(つて)
3 ねぎら(う)
4 あげつら(う)
5 たなごころ
6 あまつさ(え)
7 くわ(しい)
8 かたくな(な)
9 ちな(んだ)
10 やから

3 熟語の読み・一字訓読み

各1点・計10点

- ア 1 いんか
2 ゆる(す)
イ 3 ひつせい
4 お(わる)
ウ 5 だつりやく
6 かす(める)
エ 7 とくしよく
8 けが(す)
オ 9 たんい
10 たい(らか)

4 共通の漢字

各2点・計10点

- 1 芳(芳紀・芳情)
2 容(陣容・容色)
3 消(消長・私消)
4 昂(低昂・昂然)
5 足(足労・長足)

5 書き取り

各2点・計40点

- 1 曙光
2 飛沫
3 逆鱗
4 梱包
5 嚙
6 天秤
7 贗造
8 億劫
9 燦(粲)然
10 翻弄
11 瞳孔
12 高嶺
13 惹起
14 柑橘
15 楯円
16 臆面
17 耽溺
18 鶉
19 恣意
20 思惟

6 誤字訂正

各2点・計10点

- 1 (清)蘇↓(清)楚
2 (錯)総↓(錯)綜
3 参(橋)↓栈(橋)
4 危(裂)↓亀(裂)
5 (啓)盲↓(啓)蒙

7 四字熟語

各2点・計30点

- 〔問1〕
1 氣息(奄奄)
2 規矩(準繩)

3 膏火(自煎)

4 形影(一如)

5 旧套(墨守)

6 (百尺)竿頭

7 (魚目)燕石

8 (古色)蒼然

9 (清濁)併吞

10 (堯風)舜雨

〔問2〕

1 ちくい(稻麻竹葦)

2 くにく(羊頭狗肉)

3 ひんぴん(文質彬彬)

4 けいちん(円木警枕)

5 じゅせつ(横説豎説)

8 対義語・類義語 各2点・計20点

- 1 末梢
2 煽動・扇動
3 拔錨
4 侮蔑
5 伯仲
6 巨細
7 腹心
8 永訣
9 顛末
10 跳梁

9 故事・諺

各2点・計20点

- 1 胡(蝴)蝶
2 紙価
3 楊枝・楊子
4 累卵
5 鴛鴦
6 囊中
7 糟糠
8 穿(鑽)鑿・鑿(二)
9 莫逆
10 大姦(奸)

10 文章題

各2点・計10点

- 〔書き取り〕
1 模糊
2 菩提樹
3 凱旋
4 甚(だしく)
5 雅馴

〔読み〕

各1点・計10点

- ア たちま(ち)
イ のぞ(める)
ウ よそお(い)
エ あまた
オ けだ(し)
カ いわゆる
キ あわ(せて)
ク しょうじん
ケ きく(すべき)
コ の(する)

1 次の傍線部分の読みをひらがなで
記せ。1～20は音読み、21～30は訓
読みである。

(30)
1×30

- 彼は発言のたびに搔頭する。
- 有名な翰藻を鑑賞する。
- 数え切れないほどの飛箭が降り注ぐ。
- 両者の意見が吻合する。
- 「乃公出でずんば」の精神で取り組む。
- 岡阜に登って夜空を眺める。
- 繭紬は布団や傘などに用いられる。
- 社員どうしが輯睦して話しやすい環境だ。
- 祖先を祭るために靈廟を建立する。
- 捺染した製品を紹介する。
- 萱堂に宜しくお伝え下さい。
- 姪孫と会うのは初めてだ。
- 大嘗会の儀式が執り行われる。
- 厩舎の掃除をする。
- 論文を補綴して提出する。
- 創業は丙寅の年にあたる。
- 狭い通路を蟹行して進む。
- 運動を続けたら恰幅がよくなった。
- 禾穂が豊かに実る。
- 荻花が河岸に群生する。
- 自作の皿は歪な形になった。
- 楣の大木の下に立つ。
- 木の俣に足をかけて登る。
- 翌年用の種粃を保管する。
- 身に覚えのない誹りを受ける。
- 裳裾をなびかせながら歩く。
- 凪いだ海を眺める。
- 濃い霧が山を奄っている。
- 庚申の年に生まれる。
- 坐に幼少の頃を思い出す。

2 次の傍線部分は常用漢字である。
その表外の読みをひらがなで記せ。

(10)
1×10

- 和室に床の間を設える。
- 発言の曖昧な点を質す。
- 自分の科を認めて謝罪する。
- 偏に日頃の努力の成果だ。
- 仕事は幾ど終わっている。
- 家族の新しい門出を寿ぐ。
- 雨が続くせいか、気が鬱んでいる。
- 動もすると一人で話し続けてしまう。
- 彼らの言い分は略一致している。
- どちらの立場にも与しない。

3 次の熟語の読み(音読み)と、その
語義にふさわしい訓読みを(送り
がなに注意して) ひらがなで記せ。

(10)
1×10

例 健勝…勝れる→けんしょう
すぐ

- ア 1 捷報 …… 2 捷つ
- イ 3 侃侃 …… 4 侃い
- ウ 5 牟利 …… 6 牟る
- エ 7 纏綿 …… 8 纏わる
- オ 9 狼戾 …… 10 戻る
- 4 次の各組の二文の()には共通す
る漢字が入る。その読みを後の
から選び、常用漢字(二字)で記せ。

(10)
2×5

- 1 問題が解決し、(1)眉を開いた。
憂(1)を帯びた表情になる。
- 2 (2)宅にお立ち寄り下さい。
時(2)の改革を目指す。
- 3 人人の主張が(3)鋭化している。
彼は反対派の急(3)鋒だ。
- 4 茶道の(4)祖として知られる。
(4)翼を膨らませながら語った。
- 5 休暇を利用して京都に(5)学する。
紅葉が見頃の山に清(5)する。
- き しゅう せつ せん
はつ び へい ゆう

5 次の傍線部分のカタカナを漢字で記
せ。

(40)
2×20

- リュウチヨウな英語で会話する。
- 長時間の離席をワびる。
- 一族のキユウテキを討つ。
- 防犯意識の重要性をケイモウする。
- タユまぬ努力の成果だ。
- 転職希望者のアッセンを行う。
- 雄大な自然のオンチヨウを受ける。
- 噂話にオヒレが付く。
- カイシヨウのある人だと褒められる。
- 故郷でジママな生活を送る。
- 同期の昇進を知ってヒガむ。
- 大雨でアンキヨの水量が増える。
- オモカジをとって障害物を避ける。
- 荷物がカサバる。
- 時代のスウセイに逆らう。
- 美術品のシンガンを鑑定する。
- 国家間のフンソウが続いている。
- 漫画の主人公にフンソウする。
- 登山道で足に山ビルが吸着した。
- 野ビルを摘みながら山道を歩く。

6 次の各文にまちがって使われている同じ音訓の漢字が一字ある。上に誤字を、下に正しい漢字を記せ。(10) 2×5

1 昨今上梓された小説は凄絶な美意識が横逸しており、頗る文壇を賑わせた。

2 会社が経営破綻の危機に瀕した折、股功の臣の注進によって事無きを得た。

3 日日凡悩が怒濤の如くに押し寄せ、世俗と訣別して隠遁する決意を固めた。

4 朝陽の差し込む壮麗無比な瓦藍の前で、長身瘦軀の僧が庭を掃き清めている。

5 都会の喧騒を離れた佳境には紺壁の空が広がり、浩然の気を養うのに最適だ。

7 次の問1と問2の四字熟語について答えよ。(30)

問1 次の四字熟語の(1～10)に入る適切な語を後の□から選び漢字二字で記せ。(20) 2×10

(1)	櫛比	一蓮	(6)
(2)	附会	不俱	(7)
(3)	為楽	筆耕	(8)
(4)	垢面	神工	(9)
(5)	夢幻	焚書	(10)

きふ・けんきょう・けんてん・こうじゅ・じゃくめつ・たいてん・たくしゅう・ほうとう・ほうまつ・りんじ

問2

次の1～5の解説・意味にあてはまる四字熟語を後の□から選び、その傍線部分だけの読みをひらがなで記せ。(10) 2×5

1 一様でないものが入り混じるさま。

2 気楽な隠居生活。

3 過ちを巧妙に修正する。

4 非常に大きな差があること。

5 風流紳士の暮らしぶり。

邑犬群吠・李下瓜田・梅妻鶴子
含飴弄孫・氷肌玉骨・落筆点蠅
参差錯落・雲竜井蛙

8 次の1～5の対義語、6～10の類義語を後の□の中から選び、漢字で記せ。□の中の語は一度だけ使うこと。(20) 2×10

対義語

類義語

1 払暁

6 触発

2 分明

7 窮乏

3 絶息

8 尽日

4 栄華

9 別懇

5 駄馬

10 終身

じゃつき・しゆくや・しゅんめ・そせい・たそがれ・ちようらく・ばくげき・ひっせい・ひっぱく・もこ

9 次の故事・成語・諺のカタカナの部分で漢字で記せ。(20) 2×10

1 家貧しくしてコウシ顛れ、世乱れて忠臣を識る。

2 ホクシン其の所に居て衆星之に共う。

3 ミスを隔てて高座を覗く。

4 ブンボウ牛羊を走らす。

5 六日のアヤメ、十日の菊。

6 中流に舟を失えばイツピヨウも千金。

7 一敗地にマミれる。

8 フヨウの顔、柳の眉。

9 千里の馬は常に有れどもハクラクは常には有らず。

10 大山もギケツより崩る。

10 文章中の傍線(1～5)のカタカナを漢字に直し、波線(A～C)の漢字の読みをひらがなで記せ。(20) 2×5 1×10

A みるみる三郎のからだは溶けて、煙となり、あとには着物と草履だけが残った。オ之助は驚愕して、着物を抱き上げた。その下の土に、水々しい菊の苗が一本生えていた。はじめて、陶本姉弟が、人間でない事を知った。けれども、オ之助は、いまでは全く姉弟の才能と愛情に敬服していたのだから、ケンエンの情は起らなかった。哀しい菊の精の黄英を、いよいよ深く愛したのである。かの三郎の菊の苗は、わが庭に移し植え、秋にいたって花を開いたが、その花は薄紅色で幽かにぼつと上気して、嗅いでみると酒の匂いがした。黄英のからだに就いては、「亦他異無し。」と原文に書かれてある。

(太宰治「清貧譚」より)

B 老人は、再び前の堂々たる姿勢に戻った。瞑目した眼を徐ろに開くと、青蓮華のような切れの鋭い眼から濃い瞳はしずかに、斜に注がれた。左の手をびたりと一ところにとどめ、右の腕を肩の附根から一ぱいに伸して、伸びた腕をそのまま、肩の附根だけで動かして、右の上空より大きな弧を描いて、そのツチの拳は、鑿の手の拳に打ち卸される。窓から覗いているくめ子は、嘗て学校で見たセツコウ模造の希臘彫刻の円盤投げの青年像が、その円盤をさし挟んだ右腕を人間の肉体機構の最極限の度にまでさし伸ばした、その若く引緊った美しい腕をちらりと思い泛べた。……

「ですから、ど、い、うでも食わにや違ひきれんのですよ」

実はこの一くさりの老人の仕方は毎度のことである。これが始まると店の中へしばらく忘れて店の者は、快い危機と常規のある奔放の感触に心を奪われる。あらためて老人の顔を見る。だが老人のシンシな話が結局ど、い、うのことに落ちて来るのでどつと笑う。あまり悪くなったのを押し包んで老人は「また、この鑿の刃先の使い方には陰と陽とあつてな」と工入らしい自負の態度を取戻す。牡丹は牡丹のヨウエンないのち、唐獅子の豪宕ないのちをこの二つの刃触りの使い方で刻み出す技術の話にかかった。そして、この芸によって生きたものを硬い板金の上へ産み出して来る過程のいかに味のあるものか、老人は身振りを増して、滴るものの甘さを嚙るとろりとした眼付きをして語った。(岡本かの子「家霊」より)

● 制限時間

60分

● 合格点

160点

● 得点

点 / 200

氏名	ふりがな	訂正 ※氏名に誤りがある場合、右上の訂正にマークし、正しい氏名を記入。	性別	生年月日	元号は 令和…R 平成…H 昭和…S 大正…T 明治…M を記入。西暦の 場合はWとして 下2ケタを記入。	
			男	元号 年 月 日		※印字されていない場合は、 中に生年月日を記入。
			女	訂正 元号 年 月 日		※生年月日に誤りがある場合、 訂正にマークし、 の中に正しい生年月日を記入。
マーク記入例			○のように「」をきれいに ぬりつぶしてください。			

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

1読み (30)

5	4	3	2	1

4 共通の漢字 (10)

オ		エ		ウ		イ		ア	
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

3 熟語の読み・一字訓読み (10)

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

2 表外の読み (10)

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

5 書き取り (40)

漢検

準1級

模擬試験問題③ 答案用紙

54321

〔問2〕
意味と読み

10987654321

〔問1〕
書き取り

7
四字熟語
(30)

54321

誤
正

6
誤字訂正
(10)

2×5

2×10

2×5

10987654321

9
故事・諺
(20)

10987654321

8
対義語・類義語
(20)

2×10

2×10

コケクキカオエウイア

読み

54321

書き取り

10
文章題
(20)

1×10

2×5

注意点

• 答えはすべて答案用紙に書くこと。

• 問題についての説明はないので、問題をよく読んでから答えを書くこと。

• 答えは、必ずHB・B・2Bの鉛筆かシャープペンシルで書くこと（ボールペンや万年筆などは使用不可）。

• 答えは楷書体で枠内いっぱい大きくはっきり書くこと。
特に漢字の書き取り問題では、はね・とめなどをはっきり書く。
行書体や草書体、乱雑な字は検定の対象にならない。

1 読み

各1点・計30点

- 1 そうとう
- 2 かんそう
- 3 ひせん
- 4 ふんごう
- 5 だいこう
- 6 こうふ
- 7 けんちゅう
- 8 しゅうぼく
- 9 れいびよう
- 10 なっせん
- 11 けんどう
- 12 てっそん
- 13 だいじょうえ
- 14 きゅうしゃ
- 15 ほてい・ほてつ
- 16 へいいん
- 17 かいこう
- 18 かつぶく
- 19 かすい
- 20 てきか・てつか
- 21 いびつ
- 22 すぎ
- 23 また
- 24 たねもみ
- 25 そし(り)
- 26 もすそ
- 27 な(いだ)
- 28 おお(つて)
- 29 かのえさる
- 30 そぞろ(に)

2 表外の読み

各1点・計10点

- 1 しつら(える)
- 2 ただす
- 3 とが
- 4 ひとえに
- 5 ほとん(ど)
- 6 ことほ(ぐ)
- 7 ふさ(いで)
- 8 やや
- 9 ほぼ
- 10 くみ(し)

3 熟語の読み・一字訓読み

各1点・計10点

- ア 1 しょうほう
- 2 か(つ)
- イ 3 かんかん
- 4 つよ(い)
- ウ 5 ぼうり
- 6 むさぼ(る)
- エ 7 てんめん
- 8 まつ(わる)
- オ 9 ろうれい
- 10 もと(る)

4 共通の漢字

各2点・計10点

- 1 愁(愁眉・憂愁)
- 2 弊(弊宅・時弊)
- 3 先(先鋭化・急先鋒)
- 4 鼻(鼻祖・鼻翼)
- 5 遊(遊学・清遊)

5 書き取り

各2点・計40点

- | | |
|---------|----------|
| 1 流暢 | 11 僻(む) |
| 2 詫(びる) | 12 暗渠 |
| 3 仇敵 | 13 面舵 |
| 4 啓蒙 | 14 嵩張(る) |
| 5 弛(まぬ) | 15 趨勢 |
| 6 幹旋 | 16 真贋 |
| 7 恩寵 | 17 紛争 |
| 8 尾緒 | 18 扮装 |
| 9 甲斐性 | 19 蛭 |
| 10 自儘 | 20 蒜 |

6 誤字訂正

各2点・計10点

- 1 (横)逸↓(横)溢
- 2 (股)功↓(股)肱
- 3 凡(悩)↓煩(悩)
- 4 瓦(藍)↓伽(藍)
- 5 (紺)壁↓(紺)碧

7 四字熟語

各2点・計30点

- 〔問1〕
- 1 鱗次(櫛比)
 - 2 牽強(附会)

- 3 寂滅(為楽)
- 4 蓬頭(垢面)
- 5 泡沫(夢幻)
- 6 (一蓮)托(託)生
- 7 (不俱)戴天
- 8 (筆耕)硯田
- 9 (神工)鬼斧
- 10 (焚書)坑儒

〔問2〕

- 1 しんし(参差錯落)
- 2 がい(含飴弄孫)
- 3 てんよう(落筆点蠅)
- 4 せいあ(雲竜井蛙)
- 5 かくし(梅妻鶴子)

8 対義語・類義語

各2点・計20点

- | | |
|---------|-------|
| 1 黄昏 | 6 惹起 |
| 2 模糊 | 7 逼迫 |
| 3 蘇(甦)生 | 8 夙夜 |
| 4 凋落 | 9 莫逆 |
| 5 駿馬 | 10 畢生 |

9 故事・諺

各2点・計20点

- | | |
|------|---------|
| 1 孝子 | 6 一瓢 |
| 2 北辰 | 7 塗(れる) |
| 3 御簾 | 8 芙蓉 |
| 4 蚊虻 | 9 伯樂 |
| 5 菖蒲 | 10 蟻穴 |

10 文章題

〔書き取り〕

各2点・計10点

- | | |
|------|------|
| 1 嫌厭 | 4 真摯 |
| 2 槌 | 5 妖艶 |
| 3 石膏 | |

〔読み〕

各1点・計10点

- | | |
|----------|---------|
| ア ぞうり | カ かつ(て) |
| イ かな(しい) | キ や(り) |
| ウ かす(か) | ク ぼたん |
| エ また | ケ からじし |
| オ おもむ(ろ) | コ ごうとう |